

一対一のコミュニケーションのアート： 稲垣立男の「博物館」プロジェクト における事例研究

稲垣立男 • メディアと表現

●要約

本稿は、2003年9月26日 — 28日にロンドン、テート・モダン美術館で開催されたアートと人類学についての国際シンポジウム「Fieldworks: Dialogues between art and anthropology」において発表された「Art of One-to-One Communication: Case Study on Tatsuo Inagaki's 'Museum' Projects」を邦訳し、加筆、修正したものである。

「Fieldworks: Dialogues between art and anthropology」では、「フィールド・ワーク」をキーワードに、各国のアーティストや人類学者の研究課題において共通した問題やお互いの連携の可能性について議論され、それぞれの分野でのアプローチが報告、検証された。私のおこなってきたアート・プロジェクトも、その有効な例として紹介された。ここでは、プロジェクトの中からいくつかの具体的な例を示すことにより、一対一のコミュニケーションに焦点を合わせた実践を紹介していく。

●キーワード

フィールド・ワーク

一対一のコミュニケーション

地域

博物館

キャプション

サイト・スペシフィック・アート

コミュニティ・アート

パブリック・アート